

中野区議会議員

中村延子

NOBUKO NAKAMURA

区議会レポート

vol.41

令和7年1月号

発行/立憲・国民・ネット・無所属議員団

中野区中野 4-11-19
Phone: 03-3228-8876
Fax: 03-3389-8718

編集/中村延子事務所
中野区弥生町4-32-6-303
Phone: 080-6533-9450
email: n@nakamuranobuko.jp

www.nakamuranobuko.jp



中村延子のプロフィール
1981年 9月2日生まれ 東京都中野区出身

おとめ座/B型/酉年
趣味:音楽、料理、旅行、読書

1994年 東京文化小学校卒業

小学校5年生の冬、ブラジルで(社)CISVの11歳キャンプに1ヵ月参加し、9カ国の子どもたちと異文化交流を体験。この頃から国際社会に興味を持つ。

1997年 東京文化中学校卒業

15歳で単身アメリカに渡る決意。

2001年 米国アニーライトスクール高等部卒業

在学中、夏休みを利用し宝仙学園幼稚園でボランティアをし、卒業必須活動である50時間のコミュニティーサービスを、自分の出身地である中野で実施。1912年から続いている伝統行事のメイデーでは、高校生活での活動が評価され卒業生から1人選ばれるメイクインに選ばれた。

2005年 米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業

在学中、上智大学比較文化学部にてサマースクール受講。2004年 北京大学医学部へ短期留学。

2005年 民間企業に就職

株式会社ケン・コーポレーションから業務委託を受ける総務代行会社に就職。外国人賃貸住宅管理部署業務の一端を担う。

2009年 衆議院議員手塚よしお秘書

地元事務所に勤務。

2010年 参議院議員蓮舫秘書

参議院選挙にて、秘書派遣で蓮舫大臣の選挙事務所スタッフとして奮闘。その延長線上で事業仕分けのお手伝いも含め、蓮舫事務所に出向。

2011年 中野区議会議員 初当選

1,530票をいただき初当選。建設委員会、震災対策特別委員会を歴任。厚生委員会、地域支え合い推進特別委員会副委員長を務める。民主党東京都連青年委員会交流局副委員長、中野区国際交流協会評議員。

2015年 中野区議会議員 2期目の当選

2,513票をいただき、2期目の当選。区民委員会委員長、少子高齢化対策特別委員会に所属。後期は、総務委員会委員、少子高齢化対策特別委員会委員を務める。

2019年 中野区議会議員 3期目の当選

2,603票をいただき3期目の当選。前期は子ども文教委員会、中野駅周辺整備・都市観光調査特別委員会に所属。現在は総務委員会、危機管理・感染症対策調査特別委員会副委員長を務める。

2020年1月 第一子を出産

2023年 中野区議会議員 4期目の当選 (2057票)

2024年3月 第二子を出産



兄と2人で祖母の故郷・広島県福山市にて



メイデーでのスピーチ



北京大学に短期留学

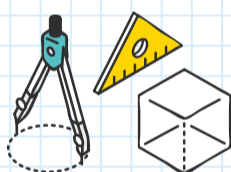


2011年4月中野区議選



立憲・国民・ネット・無所属議員団

中野駅新北口エリア再整備計画 (サンプルサ施設)問題について



これまでの経緯

- 2024年7月、施工予定者(野村不動産含む4社)が総事業費2639億円で施工認可申請を行った。
- 2024年9月、特定業務代行(清水建設)から工事費見積もりが約900億円増額され2024年度内での事業着手が難しいことが区へ報告された。
- 2024年10月、施工認可申請の取り下げ
- 2025年3月末までに施工予定者から区に対し事業計画の見直し方針が示される予定

なぜ工事費が900億円上昇したのか

物価高騰や人手不足等による影響や、専門業者の繁忙期によるもの

完成遅延による財政への影響

中野サンプラザ・区役所の閉鎖管理にかかる月2800万円、返済見込みだった借金の金利にあたる年1億円などスケジュール遅延に伴う費用負担を施工管理者に求めていく

施設計画変更の方向性

- 多目的ホールは規模と機能を維持
- 展望施設や屋上広場は機能を維持
- 住居の割合が4割から6割に増(オフィスが4割から2割に減)



令和7年度予算に向けた予算要望を 区長・教育長に提出しました



10月21日、立憲・国民・ネット・無所属議員団として、区長ならびに教育長に対し、予算要望を行いました。物価高騰対策をはじめ、区民のみなさまからの要望をもとに会派でまとめさせていただきました。



厚生委員会で 視察へ行きました



10月31日および11月1日に、山形県山形市と天童市に視察に行ってきました。山形市では、健康ポイント事業 SUKSK について、天童市ではショッピングリハビリ事業とピンクリボン推進事業について学ばせていただきました。中野区でも来年度からコミュニティポイント事業が始まる予定ですが、事業の推進にあたりとても参考になりました。



会派で視察へ 行ってきました



12月18日および19日に広島県尾道市と広島市を視察してきました。尾道市では地域包括ケアについて、広島市では平和資料記念館を視察してきました。2025年8月に戦後80年を迎えるにあたり、改めて戦争や原爆の悲惨さを学びなおしました。今後も区の平和事業等に生かしていきます。





令和6年第4回定例会で 一般質問しました！

質問のダイジェスト版



① 区有施設整備計画について

① 物価高騰等の影響について

Q 長引く物価高騰は今後の区有施設更新に大きな影響を与える。一方で老朽化に対応も必要。計画的に施設更新のためには、計画的な基金への積み立てが極めて重要。新たな財政運営の考え方で、減価償却費の25%を基金に積む方針だが、物価高騰を鑑みた積み立て計画を進めていくべき。また、それぞれの施設の標準規模を定めることが必要だと考えるがどうか。

A 基金積立の考え方については、物価高騰や金利上昇などの社会情勢、今後の施設整備計画や整備経費、基金残高を勘案し、改めて整理していく。次期の基本計画や区有施設整備計画の策定スケジュールとあわせて行っていきたい。多様な行政需要や地域特性に対応する一方、将来人口の見込み等を想定する事が求められている。これらの状況を総合的に勘案しながら、必要な施設整備の基本的な考え方を整理したい。

② 児童館について

Q 子どもを取り巻く現状として、居場所がないことは孤独・孤立の問題と深く関係しており、価値観の多様化も踏まえた居場所が求められている。こうしたことから子どもの居場所づくりが重要と考えるが、区の見解は。

A 安全・安心な環境の中で多様な他者と関わりながら成長するために不可欠である。早急かつ重点的に取り組む必要があると認識している。

Q 子どもの居場所づくりで重要な役割を担うのが児童館だと考えるが、果たすべき役割をどう考えているのか。

A 18歳以下のすべての子どもが自らの意思で来館し、子ども同士や職員との交流を図りながら、安心して過ごすことができる重要な児童福祉施設である。

③ 旧商工会館跡施設について

Q 今後、区として中高生年代向けの拠点施設を整備するにあたり、福祉的な役割をどう考えているのか。

A ニーズに対応した居場所の提供とともに、悩みや課題を早期発見し、様々な関係機関につなぐことができるよう、日常的な関わりの中での相談支援の仕組みを検討する。

Q 男女共同参画センターは中野駅周辺に必要であり、旧商工会館跡施設の複合化にあたっては配置を検討すべきと思うが区の見解は。

A 交通の利便性が高い場所であることが望ましく、交流活動や居場所機能について拠点施設との親和性が高いことから、検討する。

② スマートウェルネスシティなかのの推進について

Q 他自治体に比べ後発になるため、より充実したスタートが必要である。働く世代や子育て世代を巻き込む取り組みが必要と考えるがどうか。

A 直接的な「ひとへのアプローチ」だけでなく環境を整える「まちへのアプローチ」がSWCの視点であり、どの世代にとっても健康増進に繋がるまちを目指す。

③ SRHR(セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)について

Q 「30を超えたら子宮を摘出する」といった発言の根底には、女性蔑視とともに、少子化は女性だけに原因があるという本質をとらえきれていない思想がある。改めてSRHRの概念の浸透が急務と考えるが区の見解は。

A 中野区男女平等基本条例の理念にも通ずるものであり、普及啓発に取り組む。

Q これまで保護者向け性教育講座として、子ども政策課で行ってきた性に関する正しい知識の普及啓発事業が今年度からユニバーサルデザイン課に事業がうつっている意義は大きいと考えるが見解は。併せて、今年度の取組について伺う。

A 性に関する正しい知識の普及啓発事業は保護者向けだけではなく、広く区民を対象として行うことが必要と考えている。今年度は、区民講座の実施を検討している。



第4回定例会一般質問

第3回定例会決算特別委員会で 総括質疑を行いました！

質問のダイジェスト版

① 令和5年度決算について

① 行政評価と予算編成について

Q すべての区の事業に終期を設定し、現実的に見直すタイミングを作る必要性を提案してきた。令和6年度予算の概要では、500を超える事業の中で6事業のみであった。今後、終期を設定した事業を増やす必要があるのでは。

A 事業見直しの契機となるため、終期を設定した事業を増やすことを検討していく。

Q 行政評価制度の根本的な見直しを次期基本計画にあわせ検討するべきでは？

A 次期基本計画の検討に着手していくに当たり、行政評価制度と業務改善の在り方について、全庁的に見直しを検討していきたい。

② 新型コロナウイルス感染症の5類移行と感染症対策について

Q 報道もされない為、実は感染者数も死亡者数も多いことが周知されず、注意喚起もされない。中野区で注意喚起について工夫をすると答弁されていたが、感染拡大時はどのような対応をしたのか。

A 令和6年の第4週から中野区独自の基準として、医療機関1定点あたり10.0を超えた場合に、感染症週報にて注意喚起をすることとしている。

Q 感染拡大時には、LINE や X 等の広く区民へ周知できる媒体で配信すべきと考えるが、どうか。

A 今後考えていきたい。

Q 新型コロナワクチンの定期接種以外の方の費用助成を検討すべきと考えるが区の見解は。

A 任意予防接種対象者への助成は、感染状況等を踏まえ判断していく。

Q 特に6か月から4歳の接種については、初回接種で3回接種が必要になる。1回16000円とすると48000円かかることとなる。助成制度について検討すべきと考えるがどうか。

A 今後の感染状況等を踏まえて判断していく

Q 妊婦へのRSウイルスワクチンは、昨年11月に承認、6月に販売開始された。医療費、おやの精神的負担や一定期間仕事にいけなない経済的影響、もちろん未来ある子どもを守るという観点からも、一部助成を検討すべきと考えるがどうか。

A 情報収集に努めるとともに、他自治体の動向も注視しながら判断していく。

② 子宮頸がん等 HPV 関連疾患対策について

① HPV ワクチンについて

Q 本来は3回接種までに6か月要するが、医師が認める場合は4か月で接種が済む。また、宮崎市は3回目接種だけ来年度も受けられるよう、予算措置をする方針である。こうしたキャッチアップ接種に対する工夫や、救済措置等が必要ではないか。

A 接種期間を超えた場合の救済措置は考えていない。(※厚生労働省から今年度中に1回目を打ち終わっている方については、2～3回目接種の期限を1年間延長される方針が11月に発表されました)

Q 男子 HPV ワクチン接種費用助成については、中野区が始めたことにより、東京都が動き、全国にも広がった。中野区として大きく胸を張るべきところと考えるが見解は。

A 意義や効果が広く重要な取組であると認知されてきたものと考えている。今後も区民が安心して健康に暮らしていけるよう、積極的に取り組んでいきたい。

② 子宮頸がん検診について

Q 子宮頸がんの HPV 検査単独法は、感度が95%以上あり、陰性であれば2年ごとから5年ごとの検査にできる。導入を検討すべきではないか。

A 先行自治体の取組を注視し、課題を整理していく。

③ 産前産後の支援について

Q 国が進めている母子保健 DX の中で、一元化された予約システムの実現に取り組むことができるのでは。

A 国の動向を注視し、母子保健 DX の中で検討していく。

Q 母子保健 DX での予約システムの実現が令和9年度以降となるのであれば、別の媒体を暫定的に活用することも検討すべきではないか。

A 区内の産後ケア事業者が民間の予約管理システムを統一的に利用できるのか等、東京都、他区とも情報交換しながら、在り方を検討している。



決算特別委員会総括質疑